「明日は明日の風が吹く」

 Ａ山　Ａ子

私が座右の銘にしたい言葉は、「明日は明日の風が吹く」だ。

私がこの言葉を選んだ理由は、このコロナ禍で、ふだんの生活がとても不安定で見通しのよくないものになって、好きなことができなかったり遠くの友達とも会うことができないと、不自由な生活をしていることに不満になって、イラつくことが多くて、家族でも何度かケンカをしていて、不満をまき散らす自分にも、とてもいやだと思ってきたときにこの言葉に出会った

考えてみると、コロナ禍の中でも、小さいが楽しいことはあるし、遠くの友達だけでなく周りにたくさんの友達がいるし、コロナ禍以前の生活でも何が起こるか分からないのは一緒のことだから、どうせ同じ時間を過ごしていくなら、もっと今を楽しく生活したり、どうなるか分からない未来の分からない生活を不安に思うのではなく今を楽しく生活してみようと考えを変えてみようと思ったのだ。

「明日は明日の風が吹く」。これを、これからの座右の名にしたい。

 「七転び八起き」

 Ｂ川　Ｂ太

私が座右の銘にしたい言葉は、「七転び八起き」だ。私にとってこの言葉は、人生そのものだ。人生とは、自分の生きる道のことで、私はもう十二年も生きている。私は、部活動に入っている。

卓球部だ。保育園の時からずっと続けている。人生は長い。これからも人生は長く続く。いい日もある。悪い日もある。

サーブが入る日もあれば、スマッシュが決まらない日もある。

一回戦を楽勝で通過する時もあれば、当たりが悪く優勝候補と当たってボロ負けの時もある。そんなことにいちいち気分を乗せていたらこんなに続けてはいられない。続けてきたから今がある。今があるのは続けてきたからだ。続けてきたことで今の自分があると言えるのだ。倒れてもすぐに起きあがり、また倒れる。その繰り返しで、今があるのは続けてきたからだ。気にして生きていたら、多分私は卓球を行っていなかったであろう。私はこれからも変わらず、「七転び八起き」を座右の名にしていきたい。

「備えあれば憂いなし」

 Ｃ中　　Ｃ代

私が座右の銘にしたい言葉は、「備えあれば憂いなし」だ。

この言葉は好きだが、その意味の通りとは限らない。例えば、テスト前の期間を思い出してほしい。テスト前になると、皆、絶対不安になる。

そして部屋の掃除を始める。それはなぜか。答えは、どんな問題しか出るか先生しか分からないからであろう。では、テストに備えてテストの勉強すれば、テストの不安は消えるのか。答えは「ノー」だ。完全に消えることはない。でも、私はこの言葉が好きだ。その理由は、とことん備えることで憂い感じつつも、皆、絶対、実力発揮をするときにベストパフォーマンスを発揮できるからである。私が、一生懸命勉強したときは、「もしかしたら満点が取れるかもしれない」と途中で感じるほどベストパフォーマンス発揮することができた。その言葉のとおりとは行かないが、自分をベストの状態もっていくための魔法の言葉として「備えあれば憂いなし」をいつも近くに置いておきたい。

「急がば回れ」

 Ｄ林　　Ｄ造

私が座右の銘にしたい言葉は、「急がばまわれ」だ。

私はせっかちだ。そして、落ち着きもない。じっくりと掃除をするのも苦手で、部屋はいつもちらかっている。

分かっているのに、なかなか自分を変えることができない。そんな中、こんなことがあった。友達が委員会のポスターの色ぬりが頼んできた。

かなり遅れているからという理由から、仲のよい友達と一緒に数枚の色ぬりを頼まれた。私は、仲のよい友達に負けたくないという思いが勝ったから、急いで取りかかろうと思い、その友達に詳しいぬり方を聞く前に作業を始め、一番に終えることができたから満足した。ところが、そのポスターは、環境を意識した色をぬる必要があり、その色とは正反対の色を塗ってしまったため、やり直しがふえ、余計な時間が増えたため、友達にも迷惑をかけてしまったため、自分を変えたいと強く思い始めた。自分を変えるために「急がば回れ」を座右の名にしていきたいと思う。